



## 津波が残した亀裂

小河 久志

(おがわ ひさし)

総合研究大学院大学文化科学研究科

政府からの支援米の支給風景。  
村人はさまざまな個人、組織から支援を受けている



村の船の大半が停泊する運河。  
津波はこの運河にも入り込み漁船や漁具、  
家屋に大きな被害を与えた



津波で破損した船を修理する村人。  
こうした光景は村の各所で見られる

### 被災者支援金の行方

未曾有の被害をもたらしたスマトラ島沖地震津波から一年近くが過ぎた。乾季に入ったタイ南部トラン県の漁村M村は、まさに今がかきいれ時。村人は津波などなかったかのようにせわしなく漁に動んでいる。津波直後は多くの船や漁具が破損し、果たして漁業を再開できるのか？と危惧したことが嘘のようだ。だが着実に進む復興の裏で、津波が村人のあいだに生んだしこりは未だに残っている。

このしこりは、被災者支援金の不平等な分配から生まれた。タイ政府は津波後、被害を受けた漁家一世帯につき支援金二〇〇〇バーツの支給を決定し、村長が分配を務めることになった。だが、私がお世話になっているR氏一家や近隣宅にはいつまでも届かない。「隣村ではもう支給されたっていうのに」「おかしい」。誰もが不審に思った矢先、M村の村長を兼任する区長(複数の村から構成される区の長)による支援金着服の事実が発覚した。彼は親族を中心とする自分に近い人間にだけ支援金を支払い、残額を着服したのだ。当然、支援金にありつけない村人は区長宅へ大挙、抗議に行くが、肝心の本人は第二妻の住む町へ逃げてしまったあと。その後数カ月の間、彼を村で見かけることはなかった。

### 区長派VS反対派

区長の不正に対してある者は郡役場、ある者は警察へと赴き彼を処罰するよう訴えた。しかし彼らは、曖昧な返事をするだけで一向に聞き入れてくれない。区長は

彼らと懇ろな関係にあるため、不正が黙殺されたというわけだ。こうなると、もはや彼らに打つ術は残されていなかった。かくして怒りの矛先は、区長から支援金を得た村人に向けられることになる。それまで仲の良かった者たちが急に口を聞かなくなるなど、村が次第に「区長派」と「反区長派」に分化し始めた。結果私まで「お前はどっち派だ？」と尋ねられる始末。この対立が最高潮に達したのが七月末におこなわれた村長選挙だった。今まで對抗馬のなかった村長選挙に反対派が対立候補を擁立したのだ。さすがの区長も焦ったのか、六月に入ると村に顔を出し始め、豊富な資金を元に選挙活動と称する宴会を頻繁に開催した。その結果、辛くも再選した。だが一カ月後、再び彼らにリベンジの機会が訪れるのだが、これは八月末の区長選挙。区内の村長のなかから一名が区長に選ばれるのだが、この時はM村村長を含む三名が立候補した。そこで反対派は団結し、区内に住む親戚・知人宅を精力的に訪れ、他候補に投票するよう訴えた。区長の不正は最終に区内に知れ渡っていたこともあり、既に彼はその地位を追われることになった。

両派の勝負は今のところ「おあいこ」。しかし依然として区長の犯した不正は、解決されぬまま。また彼は、区長では無いが今後また、村長であり続ける。反対派はリコールという手段を用いてでも彼に対抗するかもしれない。津波災害支援の前には見られなかった派閥とその対立は、今後も維持されていくことだろう。M村の「完全な」復興は、当分先のことのように。